

第 15 回ユネスコスクール全国大会 分科会詳細

第 1 分科会

ユネスコスクール交流会－ユネスコスクールとしての活動を発展させていくために

対面

登壇者

- 奥平 直子 氏(横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校)
- 城所 拓磨 氏(三重大学附属中学校)

概要

ユネスコスクール活動の困りごとをみんなで共有し、解決しましょう！はじめにユネスコスクール2校の実践と、活動している中での悩み事を紹介します。その後、グループごとにその解決策を話し合います。この経験を基に、後半は各学校の悩み事を挙げていただき、それに対する解決策を考えたり、お互いの知っている事例を紹介したりして、今後の取り組みについて考えます。明日の授業やこれからの学校づくりに活用できる実践的な内容になると思いますので、是非ご参加ください！本分科会をきっかけに、ユネスコスクール同士のつながり作りやネットワーク強化にも貢献できればと考えています。

第 2 分科会

「ESD for 2030」をみすえた新たな評価へ－ACCU 評価事業をもとに

対面

登壇者

- 新宮 済 氏(奈良女子高等学校/近畿 ESD コンソーシアム)
- 佐野 純 氏(箕面こどもの森学園 校長)
- ACCU 評価事業参加メンバーほか

概要

ESD の評価とは？学習指導要領に ESD が位置付けられ、すべての学校において「持続可能な社会の創り手」の育成に向けた教育が行われることとなりました。ユネスコスクールには ESD の推進拠点としての役割の継続と、実践の多様性と質の向上を目指す方針が示されています。ユネスコスクール定期レビューの導入も、前向きに捉え活用する学校が多くある一方で、自校の ESD で育てたい資質や能力の明確化や、評価について苦戦している教員の意見も耳にします。その中で、ACCU では全国の ESD 実践者と有識者を約 25 名集め、4 年間 ESD の推進に向けて議論し、各学校で育てたい多様な資質・能力につながる評価手法を開発しました。本分科会では、はじめに開発したルーブリック評価シートを活用した実践報告をします。次に、全国の教員と関係機関の方々の知見を集結して「ESD for 2030」をみすえた新たな評価に向けて、「持続可能な開発のための教育、ロードマップ」を基にしてルーブリック評価を作成します。最後に、有識者の方に評価していただき、活用への助言をいただきます。

第3分科会

生徒たちと考える－地域や企業とつながる“越境した”ESD活動

ハイブリッド

登壇者

- 住田 昌治 氏(学校法人湘南学園 学園長/NPO 法人日本持続発展教育推進フォーラム 理事)
- 浅井 孝司 氏(NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J))
- 山口 由希子 氏(㈱ファーストリテイリング サステナビリティ部ビジネス・社会課題解決連動チーム)
- 川邊 健司 氏(東京家政学院中学校・高等学校)
- 東京家政学院中学校・高等学校生徒
- 兵庫県立川西北陵高等学校生徒
- 米倉 明日子 氏(横浜市立嶮山小学校)
- 横浜市立嶮山小学校児童

概要

変化が激しく、正解のない時代の中、一人ひとりが自分らしく生きていくためには、どのような力を育んでいけば良いでしょうか。自分たちで対話し、自己決定していくこと。すぐに答えを出すのではなく、多様な考えを尊重し合うこと。そして行動すること。そのためには、学校の外にいる地域や企業とつながり、「越境」していく経験が大切です。本分科会では、2010年より毎年実施している「ESD 大賞」受賞校と、企業を中心とした取組として、ファーストリテイリングの“届けよう、服のチカラ”プロジェクト参加校より、児童生徒が発表します。若者たちの声に耳を傾け、異質な外とつながる意義について考えたいと思います。

第4分科会

ユネスコスクールを動かす教職員とは？－活気のある学校づくりの秘訣

ハイブリッド

登壇者

- 小林 亮 氏(玉川大学 教授)
- 上別府 隆男 氏(福山市立大学 教授)
- 水谷 瑞希 氏(信州大学 助教)
- 丹野 隆史 氏(佐野日本大学中等教育学校)
- 北川 喜樹 氏(勝山市立勝山中部中学校)
- 藤本 弘興 氏(尾道市立重井中学校)

概要

ユネスコスクールにおける「質の高い教育」(SDGs 4)を担保するには、教職員の「やる気」や意欲をどのように引き出していくかが大きな課題となります。先生方の意欲は児童生徒たちの意欲にもつながっていきます。私たち ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)共同研究チームは、この問題に関心を持ち、教職員の動機づけに焦点を当てた学校での聞き取り調査を広島、信州、首都圏の3地域で行っています。本分科会ではとくに顕著な成果を上げている3校のユネスコスクールの先生

方にご登壇頂き、ユネスコスクールに加盟したことで先生方の意欲にどのような変化が見られたか、先生方の関与や動機づけを高めるきっかけとなった活動にはどのようなものだったか、等について工夫や課題を紹介していただきます。それを受け、ユネスコスクールの活動を持続的に活性化していくためには何が必要なのかを参加者の皆さまと一緒に検討してみたいと考えています。

第5分科会

GIGA×ESD:デジタル時代のユネスコスクールを考える

✚ ハイブリッド

✚ 登壇者

- 坂本 旬 氏(法政大学 教授)
- 武藤 久慶 氏(文部科学省)
- 大安 喜一 氏(ACCU 教育協力部 部長)
- 米田 謙三 氏(早稲田摂陵高等学校)
- 酒井 美佐緒 氏(福岡市立百道浜小学校)
- 吉岡 達也 氏(聖ヨゼフ学園日星高等学校)

✚ 概要

GIGA スクール構想が始まって4年目となり、ESDにもデジタル端末の活用が期待されています。ユネスコは昨年「グローバル教育モニタリングレポート:教育の中のテクノロジー」を発表し、日本語概要版も公開されました。また、秋には「アジア太平洋のデジタル・シティズンシップ」と題した報告書も公表されています。本分科会では、ユネスコのデジタル教育政策の考え方を紹介するとともに、文部科学省からはGIGAスクール構想の現状が報告される予定です。そして後半では、すでにESDにデジタル端末を活用している3つの学校から報告をいただき、その後、登壇者を交えてGIGAスクール構想とESDとの連携のあり方について議論を深めます。

第6分科会

Bringing living heritage to the classrooms in Japan

✚ オンライン(英語※日英同時通訳あり)

✚ 登壇者

- Duong Bich Hanh, Program Specialist for Culture, UNESCO Regional Office for East Asia
- Teachers from schools abroad (Video clips)

✚ 概要

Integrating living heritage in school teaching and learning can enhance education quality, enliven the experiences of students and teachers, and contribute to keeping this heritage alive for current and future generations. UNESCO encourages countries to safeguard living heritage through formal and

non-formal education. A methodology has been developed on why and how to integrate living heritage in lessons and extracurricular activities in schools. The session will provide the participants with detailed information on the methodology developed for successful integration of living heritage in schools. It will also showcase successful examples from countries in Asia-Pacific and beyond.

学校の授業や学習に”生きた遺産(無形文化遺産等)”を取り入れることは、教育の質を高めたり、生徒や教師の経験を活性化させたりするなど、未来に向けて貢献することができます。ユネスコは各国に対し、教育を通じて”生きた遺産”を保護するよう奨励しており、学校の授業や課外活動に”生きた遺産”をどのように取り入れるのか、その方法論が開発されています。

本分科会では、学校における”生きた遺産”の学習のために開発された方法論について詳しくご紹介します。また、アジア太平洋諸国をはじめとする世界各国の実践例についてもご紹介します。